



42nd Interim Business Report

中間株主通信 2008.4.1-2008.9.30



業界で最も競争力のある オペレーターを目指し、シェア拡大・ 収益性向上を図ってまいります。



代表取締役社長 中川 健男

当第2四半期累計期間業績について

第42期中間株主通信をお届けするにあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

株主の皆様におかれましては、平素より当社事業に対し格別なるご理解・ご愛顧を賜り御礼申し上げます。

当社の属するアミューズメント施設運營業界におきましては、昨年度から続くアミューズメント施設への法的規制の厳格化や家庭用ゲーム機器の伸張、原油高に連動したガソリン価格の高騰、金融不安といった、いわゆる「4重苦」の影響に加えまして、市場不安や物価上昇による消費マインドの急激な減退が重なり、郊外型施設での落ち込みが鮮明になっただけでなく、駅前型施設でも苦戦を強いられるようになりました。個人消費マインドの回復は当分期待できる状況ではない上、現状の金融危機は、元々アミューズメント機器の大型・高額化傾向で資金負担

が重かった中小オペレーターにとっては極めて深刻な事態であり、業界全体の構図が激変する可能性を含め、予断を許さない状況にあります。

このような状況下において昨年度からの経営体制の強化、機動的な経営戦略・資本政策の実現を目指し構築した新経営基盤を軸に、業界不況をチャンスと捉えた積極的な拡大成長戦略を推進いたしました。

主力のアミューズメント施設運營業業では不動産市況の軟化を的確に捉え、得意とする首都圏駅前型店舗物件を中心とした中長期のマーケット独占を見据えたドミナント型の新規出店や、事業再編が続く同業他社の優良店舗を中心に、個店毎の引継ぎや事業M&Aの実施などにより、当社設立以来最多となる13ヵ店（2008年10月時点では18ヵ店）の新規出店を果たしました。

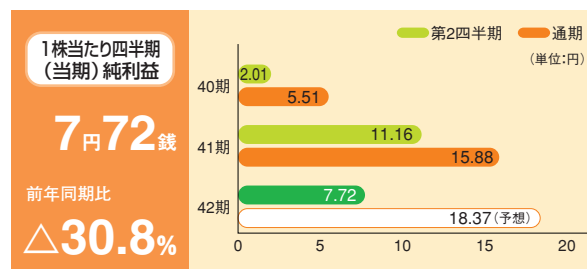
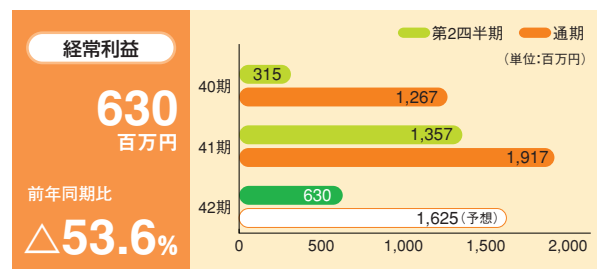
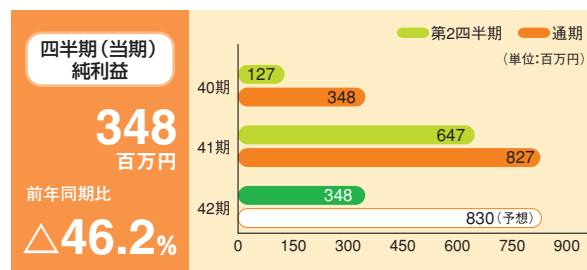
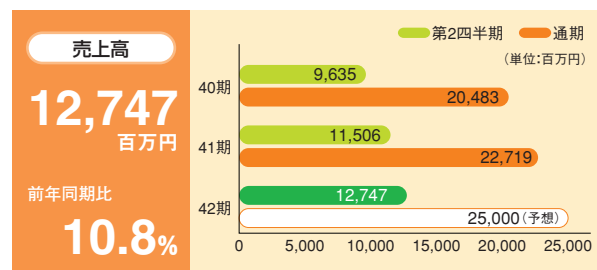
一方で既存店舗の不調は、首都圏駅前立地を中心とする当社においても例外ではなく、前年売上高比でも100%割れが続きましたが、第二の事業である各

種施設・設計施工事業におきましては得意とする中・大型ホールの内外装案件の受注の他、各種飲食関連や娯楽施設への営業網拡大により、昨年度の年間実績に迫る施工案件を半期で達成するなど好調に推移いたしました。

その結果、当第2四半期は売上高12,747百万円（前年同期比1,241百万円増・10.8%増）、営業利益708百万円（同642百万円減・47.5%減）、経常利益630百万円（同727百万円減・53.6%減）となり、純利益につきましては、店舗数拡大に伴うアミューズメント機器の有効利用により、これらの売却に伴う実損失や減損損失が減少した結果、348百万円（同299百万円減・46.2%減）となりました。

通期の見通しについて

通期の売上高は、新店効果や好調な施設関連受注により達成できる見通しです。上期は業界再編を見据え、将来の地域独占を目指したドミナント戦略を中心に、類稀な出店チャンスを優先した拡大戦略をとりましたが、下期につきましては財務体質の強化を優先するとともに、サービス（接客力+提案力）が差別化の鍵と捉えた人材の育成・新業態の提案を注力することにより、上期開設した新規店舗の収益が貢献する翌年度を含めた、中長期的な企業体力・市場競争力の地盤を創ってまいります。



当社設立以来の快挙となる、18カ店の連続出店を達成

当社の主力であるアミューズメント施設運営事業につきましては、当第2四半期におきまして、当社最多となる13カ店(2008年10月時点では18カ店)の新規出店など、積極的な事業展開を継続いたしました。この出店は、大きく分けて「将来のマーケット

独占を目指したドミナント型店舗」と同業他社からの引継ぎ・譲受けを中心とした「確度の高い売上を上乗せできる拡大型店舗」の二つに分類されますが、双方ともに不動産不況や同業・類似業界の不調をチャンスと捉えた拡大成長戦略の柱であります。

アドアーズ南砂町 SUNAMO店

2008年10月9日 OPEN

大型複合商業施設

「南砂町ショッピングセンター-SUNAMO」に3業態が複合した新たな取り組みとして出店

2008年10月9日に開設したアドアーズ南砂町SUNAMO店は、多種多様なお客様のご来店を見込める大型複合商業施設「南砂町ショッピングセンター-SUNAMO」内である環境を鑑み、「全年齢層が楽しめる施設」として当社アミューズメント施設の他にスーパーカー世代のお父さん層に渋い人気を誇るラジコン専門施設、低年齢層のお子様ターゲットを絞ることによって幅広いファミリーが集うキドキド(児童向け室内プレイグラウンド施設)による三位一体の新業態施設として展開いたしました。他の既存店舗では獲得し得なかった新たなサービス・提案ノウハウの蓄積を目指してまいります。



アドアーズ銀座店

2008年10月8日 OPEN

銀座の好立地に他店舗とは一線を画した
「東京の大人のための総合アミューズメント施設」
としてオープン

2008年10月8日。アドアーズは、ブランド名としての側面を有し、さまざまな年代・国籍の人々を魅了して止まない街“銀座”に、アドアーズ銀座店を開業いたしました。

同店は通常の「ゲームフロア」に加えて、新業態となる「アミューズメントカジノ」を同一店内にて運営する、まさに「東京の大人のための総合アミューズメント施設」を目指した店舗です。土地柄を考慮したマシンラインナップとこの新業態は、他の既存店舗とは一線を画した存在として業界内外からも高い注目を集めております。

Casino Game Lounge addict

「大人“を”楽しむ社交場」として
カジノゲームラウンジ「addict(アディクト)」開設

当社設立以来の想いである「大人の社交場」「カジノ」を、現代の日本で再現した空間として、アドアーズ銀座店B2Fにカジノゲームラウンジ“addict”を開業いたしました。(10月25日)

「大人」が楽しめる空間を最大限に演出するため、年齢制限を設けたほか、アルコールの提供やライブゲームによる本格的なカジノゲームなど、「サービス業ならではの差別化となるプロダクト開発」でアミューズメントの新機軸を探ってまいります。



アミューズメント施設運営事業を譲受けし、8カ店を開設いたしました

当社の掲げる拡大成長戦略の重要な施策のひとつとして、中小規模のアミューズメント施設運営の事業者（オペレーター）との業務提携やM&A等を検討・交渉しておりましたが、前期後半からは郊外店を中心とした業界不況の深刻化などから、その対象を当社の得意とする繁華街型駅前立地を保有するオペレーターにシフトさせておりました。

引継ぎ・譲受けの8カ店につきましては、そのほとんどが当社の得意とする首都圏駅前型の良好な立地であることに加え、昨年度から当社による人材育成を含めた店舗運営コンサルティングを実施しているなど、当社が直営化することでその高い立地ポテンシャルを早期に活かせる可能性が高いと判断した結果、事業を譲受け、アドアーズとして新規開設いたしました。

以下が譲受け8カ店の店舗一覧となります。



アドアーズ宮店

2008年9月3日 OPEN



アドアーズ藤沢北口店

2008年9月4日 OPEN



アドアーズ湘南台店

2008年9月5日 OPEN



アドアーズ三ツ境店

2008年9月5日 OPEN



アドアーズ川口栄町店

2008年9月12日 OPEN



アドアーズ上野南口店

2008年10月1日 OPEN



アドアーズ行徳店

2008年10月1日 OPEN



アドアーズ調布南口店

2008年10月1日 OPEN

各種施設開発・設計・施工事業が 前年実績に迫る施工案件を半期で 達成するなど、好調な実績を残しました

当社各種施設開発・設計・施工事業におきましては、最も得意とする中・大型ホールの内外装案件を計画以上に受注したほか、各種飲食関連や娯楽施設への営業網拡大により、昨年度の年間実績に迫る施工案件を半期で達成するなど、前年度を大きく上回る実績をあげました。

特にホール関連施工につきましては1円パチンコの人気など、主力顧客であるパチンコ業界全体で活況の2極化が進んだ結果、大手・中堅企業の設備意欲が戻りつつあります。

不動産事業部を 独立した組織へ変更しました

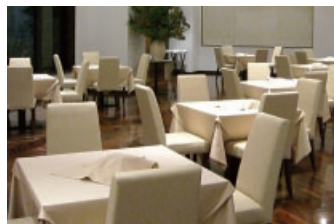
不動産事業・その他事業につきましては、不動産事業の入居率が概ね計画通り確保できたことに加え、主力であるアミューズメント施設の既存店舗強化策の一環として、入居施設の商業複合化に向けたテナントリーシング力の効率的な活用という観点から、不動産事業部を新たに独立した組織へ変更するなど、不動産部門の強化を目指しております。



パチンコホール
ガイア 函館港店



カラオケ
U-STYLE 土浦店



フードアミューズメント施設
ラーメン博物館
(新横浜ラントラクト)



情熱酒場
情熱ホルモン 高田馬場店



モダン食堂
東京厨房 新宿一丁目店

四半期貸借対照表

(単位:百万円)

| 科目 | 第42期 第2四半期 2008年9月30日現在 | 第41期 2008年3月31日現在 |
|--------------|-------------------------------|----------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 8,038 | 7,866 |
| 固定資産 | 27,028 | 21,252 |
| 資産合計 | 35,066 | 29,118 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 13,315 | 7,510 |
| 固定負債 | 11,039 | 10,792 |
| 負債合計 | 24,354 | 18,303 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | 10,708 | 10,811 |
| 資本金 | 4,000 | 4,000 |
| 資本剰余金 | 5,855 | 5,855 |
| 利益剰余金 | 2,891 | 2,994 |
| 自己株式 | △2,038 | △2,038 |
| 評価・換算差額等 | 3 | 3 |
| 純資産合計 | 10,711 | 10,815 |
| 負債・純資産合計 | 35,066 | 29,118 |

注:掲載した財務諸表は、主要な項目を表示しています。また、全て単位未満を切り捨てて表示しています。

財務健全比率

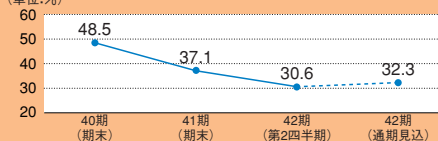
●株主資本比率

32.3%

(通期見込)

当期は業界不況をチャンスと捉えた過去最高となる新規出店(8カ店の事業譲受け含む)を実施するなど、積極的な拡大戦略を実施致しました。上記の結果、有利子負債は前事業年度比4,951百万円増の19,564百万円、株主資本比率も6.5ポイント減の30.6%となりました。今後は先行投資負担を抑えた内部体制の強化を中心に、財務体質の改善を図ること期末の自己資本比率は32.3%を見込んでおります。

(単位:%)



当冊子の表記について

当期から金融商品取引法に基づく四半期報告制度が導入されたことにより、表記内容が変更されていますが、当冊子では株主様の利便性を考慮し、以下を取り決めました。

- 収益関連数値については、期初からの「累計値」を用いています。
- 当第2四半期の財務情報と前年同期の財務情報とは会計基準や用語表現などが異なります。しかし前年と比較しやすいよう、主要数値については「ご参考値」として併記しています。その際、前年同期(中間期)については「第2四半期」と記述しています。

■ 四半期損益計算書

(単位:百万円)

| 科目 | 第42期 第2四半期 2008年4月 1日から 2008年9月30日まで | 第41期 第2四半期[ご参考] 2007年4月 1日から 2007年9月30日まで |
|------------|---|--|
| 売上高 | 12,747 | 11,506 |
| 売上原価 | 10,333 | 8,722 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,704 | 1,433 |
| 営業利益 | 708 | 1,350 |
| 営業外損益 | △78 | 7 |
| 経常利益 | 630 | 1,357 |
| 特別損益 | △39 | △141 |
| 四半期純利益 | 348 | 647 |

注:掲載した財務諸表は、主要な項目を表示しています。また、全て単位未満を切り捨てて表示しています。

■ 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

| 科目 | 第42期 第2四半期 2008年4月 1日から 2008年9月30日まで | 第41期 第2四半期[ご参考] 2007年4月 1日から 2007年9月30日まで |
|------------------|---|--|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 982 | 2,784 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △7,508 | △3,263 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 4,367 | 383 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | △2,158 | △95 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 5,474 | 5,969 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 3,315 | 5,874 |

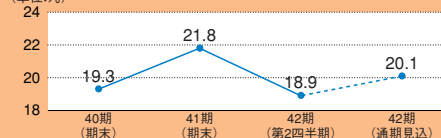
注:掲載した財務諸表は、主要な項目を表示しています。また、全て単位未満を切り捨てて表示しています。

収益性

●売上高売上総利益率 **20.1%**(通期見込)

中核であるアミューズメント事業では、新店開設による償却・経費負担の集中に加え、市況の悪化などマイナス要因はありますが、駅前繁華街立地を活かした各種強化策と徹底したコストの削減による効率的な店舗運営を推進することで収益確保を目指します。また、好調な施設関連事業の強化や安定した収益が見込める不動産事業を推進することで、期末の売上総利益率は1.2ポイント増の20.1%となる見込です。

(単位:%)

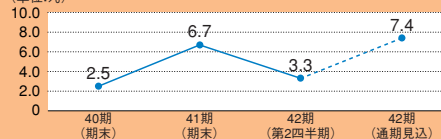


効率性

●株主資本当期純利益率 **7.4%**(通期見込)

新店開設負担や既存店の不調など、アミューズメント施設運営での減益傾向は否めませんが、第二の柱である施設設計施工事業での受注大幅増や全社一丸となったコスト削減等により収益確保することで、当期末の株主資本当期純利益率は7.4%となる見込みであります。中長期目標であるROE10.0%に向け、財務面とのバランスを兼ね備えた中長期的に安定した経営体制の基盤構築を目指します。

(単位:%)



社名 アドアーズ株式会社(ADORES, Inc.)
 創業 1964年2月11日
 設立 1967年12月25日
 資本金 40億円
 社員数 405名・臨時従業員999名 (2008年9月30日現在)
 本社事務所 〒103-0002
 東京都中央区日本橋馬喰町二丁目1番3号
 Tel. (03) 5623-1100 (代表)
 事業所 海老名事業所: 〒243-0415
 神奈川県海老名市上河内19
 神奈川トナミ運輸倉庫(株) 東名支店倉庫内
 Tel. (046) 237-3451 (代表)
 事業内容 ● 遊戯場施設の運営及び運営サポート
 ● アミューズメント施設の企画、開発及び販売
 ● アミューズメント施設のデザイン、施工及び監理
 ● 遊戯機器及び遊技機器・部品のレンタル
 ● 遊戯機器及び遊技機器・部品の修理及び保守管理業務
 ホームページ <http://www.adores.co.jp/>

役員

代表取締役社長 中川 健男
 代表取締役専務 八多川 昭一
 取締役 小泉 基靖
 取締役 石田 政三
 取締役 石田 清貴
 取締役 小野寺 宏昭
 取締役 土屋 寛
 取締役 野本 文之輔
 常勤監査役 栗岡 利明
 監査役 板谷 嘉之
 監査役 川島 英明

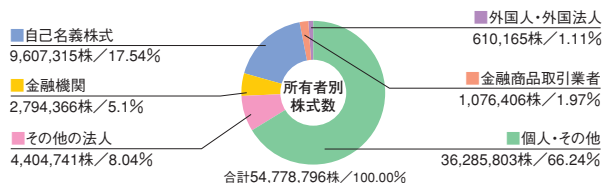
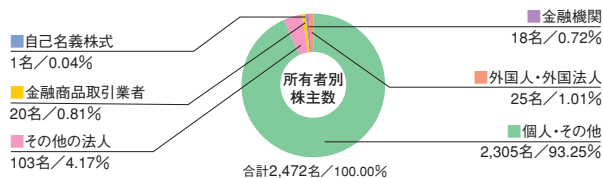
株式の状況

発行可能株式総数 130,000,000株
 発行済株式の総数 54,778,796株
 株主数 2,472名 (うち、単元株主1,618名)

大株主

| 株主名 | 当該株主の当社への出資状況 | |
|--------------------|---------------|----------|
| | 持株数(株) | 議決権比率(%) |
| GF投資ファンド投資事業有限責任組合 | 20,500,000 | 45.94 |
| 鈴木 昭作 | 2,046,486 | 4.58 |
| 株式会社スクウェア・エニックス | 1,676,000 | 3.75 |
| 日本証券金融株式会社 | 1,653,000 | 3.70 |
| 庄司 正英 | 1,000,000 | 2.24 |
| 星 久 | 975,924 | 2.18 |
| 株式会社ヤマニ興業 | 618,000 | 1.38 |
| 岡田 浩明 | 606,000 | 1.35 |
| アルゼ株式会社 | 412,000 | 0.92 |
| 株式会社だいこう証券ビジネス | 379,000 | 0.84 |

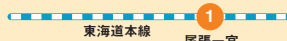
注: 上記のほか、当社名義の株式が9,607,315株あります。



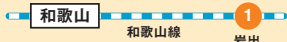
店舗ネットワーク (2008年11月30日現在) | Network



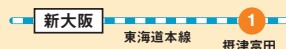
▼愛知



▼和歌山



▼大阪



▼北海道



▼宮城



東京:42、神奈川:20、埼玉:6、千葉:8、愛知:1、大阪:1、和歌山:1、北海道:2、宮城:2 計83店舗

※中の数字は店舗数を表しています。

株主メモ

| | |
|---------|--|
| 事業年度 | 4月1日から翌年3月31日まで |
| 定時株主総会 | 毎年6月 |
| 基準日 | 定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日 |
| 株主名簿管理人 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 同事務取扱場所 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 |
| (同送付先) | 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (通話料無料) |
| 同取次所 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 |
| 公告方法 | 電子公告により当社ホームページ(http://www.adores.co.jp/) に掲載。ただし、事故・その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は日本経済新聞に掲載致します。 |

- 株主関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットで24時間承っております。(株券電子化実施後は、特別口座に記録された株式についてのお手続き用紙のみとなりますので、ご注意ください。)

電話 (通話料無料) 0120-244-479 (本店証券代行部)
インターネットホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>
なお、株券電子化後、株主様の各種お手続きは、原則としてお取引口座のある証券会社経由で行っていただくことになりますので、お取引口座のある証券会社にご照会ください。

- 株券電子化前後における単元未満株式の買取・買増のご請求について
保管振替制度をご利用でない単元未満株式の買取・買増のご請求については、次の期間、三菱UFJ信託銀行での受付が停止されます。

- ・買取請求 2009年1月5日(月)～2009年1月25日(日)
また、2008年12月25日(木)から12月30日(火)までのご請求受付分は、買取価格はご請求受付日の終値を適用いたしますが、買取代金のお支払は2009年1月30日(金)となります。
- ・買増請求 2008年12月12日(金)～2009年1月25日(日)

※保管振替制度をご利用の単元未満株式に関するお手続きにつきましても、株券電子化に伴う停止期間がありますので、お取引のある証券会社にご照会ください。

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。



<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 4712

いいかぶ

検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

- アンケート実施期間は、本誌がお手元に到着してから約2ヶ月間です。
- ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を差し上げていただきます



e-株主
リサーチ

※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

- アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900(平日 10:00～17:30)
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com

当社ホームページのご案内

当社ホームページでは、当社の事業内容や、店舗情報、IRニュースなど、当社をご理解いただくための様々な情報を提供しております。ぜひご覧ください。

<http://www.adores.co.jp/>



アドアーズ 株式会社

ホームページ: <http://www.adores.co.jp/>

本誌に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

経営企画室IR・広報グループ: 03-5623-1115